

主な医薬品とその作用

問1 かぜ薬の配合成分とその配合目的に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】		【配合目的】
a	トラネキサム酸	—	咳を抑える
b	グアイフェネシン	—	発熱を鎮める
c	エチルシステイン塩酸塩	—	痰の切れを良くする
d	ヨウ化イソプロパミド	—	くしゃみや鼻汁を抑える

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問2 かぜ及びかぜ薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜを治療するためには、安静にして休養し、栄養・水分を十分にとることが基本である。
- b 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
- c かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものである。
- d かぜ薬の重篤な副作用として、まれにショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症が起きることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問3 プロスタグランジンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プロスタグランジンは、ホルモンに似た働きをする物質で、痛みのシグナルを増幅することで痛みを強めている。
- b プロスタグランジンは、体温を通常よりも低く維持するように調節する。
- c 多くの解熱鎮痛薬には、体内におけるプロスタグランジンの産生を抑える成分が配合されている。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	正	正	正

問4 解熱鎮痛薬の解熱鎮痛成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 現在では、イソプロピルアンチピリンは、一般用医薬品で唯一のピリン系解熱鎮痛成分である。
- b イブプロフェンは、クローン氏病の既往歴がある人では、その疾患の再発を招くおそれがある。
- c 解熱鎮痛成分によって、胃酸分泌調節作用が妨げられると、胃酸分泌が減少する。
- d アスコルビン酸、カフェイン、エテンザミドの組合せは、それぞれの頭文字から「ACE処方」と呼ばれる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問5 一般用検査薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 検体中に対象物質が存在しているにもかかわらず、その濃度が検出感度以下であったり、検出反応を妨害する他の物質の影響等によって、検査結果が陰性となった場合を擬陰性という。
- 2 一般的な妊娠検査薬の検査は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降が推奨されている。
- 3 尿糖・尿タンパク同時検査の場合、早朝尿（起床直後の尿）を検体とするが、尿糖が検出された場合には、食後の尿について改めて検査して判断する必要がある。
- 4 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、その検出反応は、温度の影響を受けない。

問6 以下の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適するものはどれか。

体力に関わらず、筋肉の急激な痙攣^{けいれん}を伴う痛みのあるものこむらがえり、筋肉の痙攣^{けいれん}、腹痛、腰痛に適すとされる。

- 1 桂枝加朮附湯^{けいし かじゆつ ぶとう}
- 2 疎経活血湯^{そ けいかくけつとう}
- 3 釣藤散^{ちようとうさん}
- 4 芍薬甘草湯^{しゃくやくかんぞうとう}

問7 眠気及び眠気を促す薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脳内におけるヒスタミン刺激が低下すると、眠気を促す。
- b 医療機関において不眠症の治療のため処方される睡眠薬（医療用医薬品）と区別するため、一般用医薬品では、睡眠改善薬又は睡眠補助薬と呼ばれる。
- c 睡眠改善薬は、慢性的に不眠症状がある人が対象となる。
- d 15歳未満の小児では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などの副作用が起きやすいため、減量して使用しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	誤

問8 以下の漢方処方製剤のうち、小児の瘧^{かん}又は夜なきのいずれにも用いないものはどれか。

- 1 抑肝散よくかんさん
- 2 五積散ごしゃくさん
- 3 小建中湯しょうけんちゅうとう
- 4 柴胡加竜骨牡蛎湯さいこかりゅうこつぼれいとう

問9 鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コデインリン酸塩は、妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が血液-胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られている。
- b ジメモルファンリン酸塩は、粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする。
- c メチルエフェドリン塩酸塩は、副交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示す。
- d マオウについては、依存性がある成分であることに留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

問10 鎮咳去痰薬に配合される去痰作用のある生薬として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a オウバク
- b シャゼンソウ
- c ケイヒ
- d バクモンドウ

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 11 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔咽喉薬及び含嗽薬は、口腔内にひどいただれがある人では、循環血流中への移行による全身的な影響が生じやすくなる。
- b リゾチーム塩酸塩が配合された口腔咽喉薬や含嗽薬は、鶏卵アレルギーの既往歴がある人でも使用できる。
- c ポビドンヨードが配合された含嗽薬では、その使用によって銀を含有する歯科材料（義歯等）が変色することがある。
- d ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンCと反応すると脱色を生じるが、殺菌作用は失われない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問12 吐きけ及び嘔吐に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

吐きけや嘔吐は、（ a ）にある嘔吐中枢の働きによって起こる。嘔吐中枢が刺激される経路はいくつかあるが、消化管での刺激が（ b ）系を通じて嘔吐中枢を刺激する経路や、内耳の前庭にある（ c ）の不調によって生じる刺激によって嘔吐中枢を刺激する経路がある。

	a	b	c
1	延髄	交感神経	聴覚器官
2	延髄	副交感神経	平衡器官
3	延髄	副交感神経	聴覚器官
4	中脳	交感神経	平衡器官
5	中脳	副交感神経	聴覚器官

問 13 胃の薬の配合成分とその配合目的に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】	【配合目的】
a	ピレンゼピン塩酸塩	— 消泡
b	スクラルファート	— 胃粘膜保護・修復
c	ユウタン	— 健胃
d	ジメチルポリシロキサン（別名ジメチコン）	— 抗炎症

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 14 以下の症状のうち、抗コリン作用による副作用に含まれないものはどれか。

- 1 胃酸過多
- 2 排尿困難
- 3 目のかすみ
- 4 動悸^き
- 5 口渇

問 15 腸の薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促すことを目的として、ロペラミド塩酸塩が配合されている。
- 2 ビスマスを含む成分は収斂作用のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用を持つとされる。
- 3 細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として、ベルベリン塩化物、アクリノール、もく木クレオソート等が用いられる。
- 4 腸内細菌のバランスを整えることを目的として、ビフィズス菌、アシドフィルス菌、ラクトミン、乳酸菌、酪酸菌等の生菌成分が用いられる。

問 16 瀉下薬の配合成分に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

刺激性瀉下成分が配合された瀉下薬のうち、ヒマシ油は (a) を刺激し、腸内容物の (b) 排除を目的として用いられる。なお、(c) では使用を避けることとされている。

- | | a | b | c |
|---|----|-----|-------------|
| 1 | 大腸 | 緩徐な | 腎臓病の診断を受けた人 |
| 2 | 小腸 | 緩徐な | 腎臓病の診断を受けた人 |
| 3 | 小腸 | 急速な | 3歳未満の乳幼児 |
| 4 | 大腸 | 緩徐な | 3歳未満の乳幼児 |
| 5 | 大腸 | 急速な | 3歳未満の乳幼児 |

問 17 胃腸鎮痛鎮痙薬の鎮痙成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- b オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。
- c ジサイクロミン塩酸塩は、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- d レイヨウカクは、鎮痛鎮痙作用を期待して配合されている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問 18 駆虫薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 駆虫薬は、一度に多く服用すると駆虫効果が高まるが、副作用が現れやすくなる。
- b サントニンは、服用後、一時的に物が黄色く見えたり、耳鳴り、口渇が現れることがある。
- c カイニン酸は、蟻虫の呼吸や栄養分の代謝を抑え、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d 駆虫薬は、駆虫成分の排出を促すため瀉下薬が併用されることがあり、ヒマシ油が用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 19 強心作用を期待して用いられる生薬成分に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) は、ウシ科のウシの胆嚢^{のう}中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を鎮める等の作用があるとされる。

(b) は、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。

(c) は、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示す。

	a	b	c
1	ゴオウ	リュウノウ	センソ
2	ロクジョウ	リュウノウ	ジャコウ
3	ゴオウ	ロクジョウ	ジャコウ
4	ロクジョウ	リュウノウ	センソ
5	ゴオウ	ロクジョウ	センソ

問 20 コレステロール及び高コレステロール改善薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a 大豆油不^{けん}飽化物 (ソイステロール) には、低密度リポタンパク質 (LDL) 等の異化排泄^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質 (HDL) 産生を高める作用があるとされる。

b コレステロールは水に溶けにくい物質であるため、血液中には血漿^{しょう}タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。

c リボフラビンの摂取によって尿が黄色になることがあるが、これは使用の中止を要する副作用等の異常ではない。

d 高コレステロール改善薬は、生活習慣病の予防につながるものであり、ウエスト周囲径 (腹囲) を減少^{そしょう}させるなどの痩身効果を目的とする医薬品である。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問 21 貧血及び貧血用薬（鉄製剤）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 貧血は、一般的な症状として、疲労、動悸、息切れ、血色不良、頭痛、耳鳴り、めまい、微熱等が現れる。
- b 鉄製剤を服用すると便が赤くなることがある。
- c 不足した鉄分を補充することを目的として配合される主な成分として、フマル酸第一鉄、クエン酸鉄アンモニウムなどが用いられる。
- d 貧血の症状がみられる以前から予防的に貧血用薬（鉄製剤）を使用することが適当である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問 22 循環器用薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 イノシトールヘキサニコチネートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- 2 三黄瀉心湯は、構成生薬としてダイオウを含んでおり、本剤を使用している間は、瀉下薬の使用を避ける必要がある。
- 3 コウカは、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- 4 高血圧や心疾患に伴う諸症状を改善する一般用医薬品の使用は補助的なものであり、高血圧や心疾患そのものへの対処については、医療機関の受診がなされるなどの対応が必要である。

問 23 痔及び痔疾用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分のほか、瀉下・整腸成分等が配合されたものである。
- b 長時間座るのを避け、軽い運動によって血行を良くすることが痔の予防につながる。
- c 痔瘻は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態であり、一般に、「切れ痔」(又は「裂け痔」)と呼ばれる。
- d 直腸粘膜には、知覚神経が通っていないため、内痔核は自覚症状が少ない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 24 痔疾用薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 アルミニウムクロロヒドロキシアラントイネート (別名アルクロキサ) は、痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果が期待される。
- 2 ヒドロコルチゾン酢酸エステルは、痔による肛門部の炎症や痒みを和らげるステロイド性抗炎症成分として配合される。
- 3 カイカやカイカクは、いずれも主に抗炎症作用を期待して用いられる。
- 4 内用痔疾用薬には、肛門周囲の末梢血管の血行を促して、鬱血を改善する効果を期待して、ビタミンE (トコフェロール酢酸エステル、トコフェロールコハク酸エステル等) が配合されている場合がある。

問 25 泌尿器用薬として使用される配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カゴソウは、アケビ科のアケビ又はミツバアケビの蔓性の茎を、通例、横切りしたものを基原とする生薬である。
- b ウワウルシは、利尿作用のほかに、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。
- c ソウハクヒは、クワ科のマグワの根皮を基原とする生薬で、煎薬として尿量減少に用いられる。
- d ブクリョウは、ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬で、残尿感、排尿に際しての不快感のあるものに用いられる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問 26 婦人薬及びその適用対象に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血の道症は、臓器・組織の形態的異常があり、抑鬱や寝つきが悪くなる、神経質、集中力の低下等の精神神経症状が現れる病態で、更年期（閉経周辺期）に限って現れる。
- b 婦人薬は、その効能・効果として、血の道症、更年期障害、月経異常及びそれらに随伴する冷え性、月経痛、腰痛、のぼせ、肩こり、めまい、動悸、息切れ等に用いられる。
- c 女性ホルモン的一种であるエストラジオールは、母乳を与える女性への使用が推奨されている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	正	正

問 27 以下の記述にあてはまる婦人薬の漢方処方製剤として、最も適するものはどれか。

体力中等度以下で、冷え症、貧血気味、神経過敏で、動悸、息切れ、ときにねあせ、頭部の発汗、口の渇きがあるものの更年期障害、血の道症、不眠症、神経症、動悸、息切れ、かぜの後期の症状、気管支炎に適すとされる。

- 1 柴胡桂枝乾姜湯さいこけいしかんきょうとう
- 2 桂枝茯苓丸けいしぶくりょうがん
- 3 桃核承気湯とうかくじょうきとう
- 4 葛根湯かつこんとう

問 28 アレルギー（過敏反応）及び内服アレルギー用薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鼻炎用内服薬には、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる成分としてアドレナリン抑制成分が含まれるものがある。
- b パーキンソン病の治療のためモノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人は、ブソイドエフェドリン塩酸塩が配合された鼻炎用内服薬の使用を避ける必要がある。
- c アレルゲン（抗原）との接触以外を原因とした蕁麻疹じんしんは知られていない。
- d 抗ヒスタミン成分として、クレマスチンフマル酸塩、ジフェニルピラリン塩酸塩、ケトチフェンが用いられる。

- 1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 29 内服アレルギー用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生薬成分として、グリチルリチン酸を含むカンゾウが用いられることがある。
- b プソイドエフェドリン塩酸塩は、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。
- c メチルエフェドリン塩酸塩には依存性はない。
- d 抗コリン成分として、ベラドンナ総アルカロイドが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 30 鼻に用いる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鼻炎用点鼻薬は、急性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は副鼻腔炎による諸症状のうち、鼻づまり、鼻みず、くしゃみ、頭重の緩和を目的として、鼻腔内に適用される外用液剤である。
- b スプレー式鼻炎用点鼻薬に関する一般的な注意事項として、噴霧後に鼻汁とともに逆流する場合があるので、使用前に鼻をよくかんでおく必要がある。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、抗ヒスタミン成分と組み合わせて使用してはならない。
- d ヒスタミンの遊離を抑える成分は、アレルギー性ではない鼻炎や副鼻腔炎に対しても有効である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

問 31 眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コンタクトレンズ装着液は、配合成分としてあらかじめ定められた範囲内の成分のみを含む等の基準に当てはまる製品については、医薬部外品として認められている。
- b 一度に何滴も点眼しても効果が増すことはなく、副作用を起こしやすくなることもない。
- c ソフトコンタクトレンズは水分を含みやすく、防腐剤などの配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがあるため、装着したままの点眼は避けることとされている製品が多い。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	正

問 32 眼科用薬の配合成分に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) は、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整等の反応を改善する効果を期待して用いられる。

自律神経系の伝達物質の産生に重要な成分である (b) 等は、目の調節機能の回復を促す効果を期待して用いられる。

	a	b
1	ビタミンB12	パントテン酸カルシウム
2	ビタミンB12	アスパラギン酸ナトリウム
3	ビタミンB6	パントテン酸カルシウム
4	ビタミンA	パントテン酸カルシウム
5	ビタミンA	アスパラギン酸ナトリウム

問 33 皮膚に用いる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スプレー剤は至近距離から噴霧したり、同じ部位に連続して噴霧すると凍傷を起こすことがある。
- b 殺菌消毒成分として用いられるアクリノールは青色の色素で、一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用を示す。
- c オキシドールは、作用の持続性があり、また、組織への浸透性も高い。
- d マーキュロクロムは、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

問 34 皮膚に用いる薬の抗炎症成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 主なステロイド性抗炎症成分としては、デキサメタゾン、プレドニゾロン酢酸エステル、ウフェナマートがある。
- b ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL 中0.025 mg を超えて含有する製品では、特に長期連用を避ける必要がある。
- c 非ステロイド性抗炎症成分であるフェルビナクは、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を抑える作用を示す。
- d ケトプロフェンは、フェノフィブラートでアレルギー感作された人でもアレルギーを起こすおそれがほとんどない成分として知られている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 35 歯や口中に用いる薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 歯痛薬には、冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺させることによる鎮痛・鎮痒の効果を期待して、メントール、カンフル、ハッカ油、ユーカリ油等の冷感刺激成分が配合されている場合がある。
- 2 歯槽膿漏薬（外用）では、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、カルバゾクロムが配合されている場合がある。
- 3 歯槽膿漏薬（内用）では、歯周組織の炎症を和らげることを目的として、セチルピリジニウム塩化物が用いられる。
- 4 歯槽膿漏薬（外用）は、口腔内を清浄にしてから使用することが重要であり、また、口腔咽喉薬、含嗽薬などを使用する場合には、十分な間隔を置くべきである。

問 36 禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ニコチンを有効成分とする禁煙補助剤は、ニコチン置換療法に使用されるが、咀嚼剤のみが存在する。
- b 重い心臓病等の基礎疾患がある人（3ヶ月以内の心筋梗塞発作がある人、重い狭心症や不整脈と診断された人）では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- c 非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性がないため、吐きけ、めまい、腹痛などの症状が現れやすく、誤って使用することのないよう注意する必要がある。
- d 禁煙補助剤を使用する際は、喫煙量を徐々に減らしていくよう指導する。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	正

問 37 以下の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適するものはどれか。

比較的体力のあるものの鼻づまり、蓄膿症^{のう}、慢性鼻炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 かつこんとう か せんきゅうしん い
葛根湯加川芎辛夷
- 2 とう きいん し
当帰飲子
- 3 しょうふうさん
消風散
- 4 じゅう み はいどくとう
十味敗毒湯

問 38 滋養強壮保健薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬部外品の保健薬の効能・効果の範囲は、滋養強壮、筋肉痛、神経痛、虚弱体質の改善、病中・病後の栄養補給等に限定されている。
- b 微量でビタミンと同様に働く又はビタミンの働きを助ける化合物については「ビタミン様物質」と呼ばれる。
- c ヘスペリジンは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分で、ビタミンE等と組み合わせて配合されている。
- d グルクロノラクトンは軟骨組織の主成分で、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

問 39 以下の消毒薬の成分のうち、専ら器具、設備等の殺菌・消毒に用いられる成分の正しいものの組み合わせはどれか。

- a 次亜塩素酸ナトリウム
- b クレゾール石^{けん}鹼液
- c トリクロルイソシアヌル酸
- d クロルヘキシジングルコン酸塩

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 40 殺虫剤・忌避剤及び衛生害虫の種類と防除に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ゴキブリは、食品にサルモネラ菌、ブドウ球菌等を媒介するほか、アメーバ赤痢等の中間宿主となっている。
- b ピレスロイド系殺虫成分として、ペルメトリン、フェンチオン、フェニトロチオンがある。
- c 忌避剤は、虫さされによる^{かゆ}痒みや腫れなどの症状を和らげる効果を目的として、人体に直接使用される。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	正	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

医薬品の適正使用と安全対策

問 41 医薬品の適正使用情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 要指導医薬品又は一般用医薬品は、薬剤師、登録販売者その他の医薬関係者から提供された情報に基づき、一般の生活者が購入し、自己の判断で使用するものである。
- b 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等への情報提供及び相談対応を行う際に、添付文書や製品表示に記載されている内容を的確に理解した上で、その医薬品を購入し、又は使用する個々の生活者の状況に応じて、記載されている内容から、積極的な情報提供が必要と思われる事項に焦点を絞り、効果的かつ効率的な説明を行うことが重要である。
- c 一般用医薬品の添付文書の内容は変わらないものではなく、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、必要に応じて随時改訂がされている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	誤

問 42 一般用医薬品の添付文書の記載に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 添付文書の販売名の上部に、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要となしに読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。
- b 使用上の注意の記載における「高齢者」とは、およその目安として75歳以上を指す。
- c 薬理作用等から発現が予測される軽微な症状がみられた場合に関する記載として、症状の持続又は増強がみられた場合には、使用を自己判断で中止することなく、専門家に相談する旨が記載されている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	正	正

問 43 医薬品成分と一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 パパベリン塩酸塩が配合された医薬品は、眼圧が上昇し、緑内障を悪化させるおそれがあるため、「緑内障の診断を受けた人」は「相談すること」とされている。
- 2 マオウが配合された医薬品は、肝臓でグリコーゲンを分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病の症状を悪化させるおそれがあるため、「糖尿病の診断を受けた人」は「相談すること」とされている。
- 3 カンゾウが配合された医薬品は、過剰のアルミニウムイオンが体内に貯留し、アルミニウム脳症、アルミニウム骨症を生じるおそれがあるため、「腎臓病の診断を受けた人」は「相談すること」とされている。
- 4 トラネキサム酸（内服）は、生じた血栓が分解されにくくなるため、「血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等）」、「血栓症を起こすおそれのある人」は「相談すること」とされている。

問 44 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を使用（服用）してぜんそくを起こしたことがある人」と記載することとされているものとして、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アセトアミノフェン
- b タンニン酸アルブミン
- c アスピリン
- d ロペラミド塩酸塩

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 45 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「次の診断を受けた人」として、「透析療法を受けている人」と記載することとされているものとして、正しいものの組み合わせはどれか。

- a スクラルファート
- b ジフェンヒドラミン塩酸塩
- c ビサコジル
- d ケイ酸アルミニウム

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (a, d) 4 (b, d) 5 (c, d)

問 46 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「小児における年齢制限」として、「6歳未満の小児」と記載することとされているものはどれか。

- 1 サリチル酸ナトリウム
- 2 アスピリン
- 3 オキセサゼイン
- 4 アミノ安息香酸エチル

問 47 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 防風通聖散^{ぼうふうつうしょうさん}を使用している間は、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすくなるため、「併用薬に関する注意」として、他の瀉下薬^{しゃ}（下剤）を使用（服用）しないこととされている。
- 2 クロルフェニラミンマレイン酸塩が配合された医薬品は、眠気が懸念されるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」とされている。
- 3 タンニン酸アルブミンが配合された医薬品は、偽アルドステロン症を生じるおそれがあるため、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと。」とされている。
- 4 ジヒドロコデインリン酸塩が配合された鎮咳去痰薬^{がいかん}（内服液剤）は、依存性・習慣性があり、乱用事例が報告されているため、「乱用に関する注意」として、「過量服用・長期連用しないこと」とされている。
- 5 芍薬甘草湯^{しゃくやくかんぞうとう}は、徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、「心臓病の診断を受けた人」には使用（服用）しないこととされている。

問 48 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載しなければならない主な成分と、それにより乳児に懸念される症状の組み合わせとして、誤っているものはどれか。

【主な成分】	【懸念される症状】
1 センノシド	下痢
2 ロートエキス	頻脈
3 テオフィリン	神経過敏
4 ジフェンヒドラミン塩酸塩	メトヘモグロビン血症

問 49 一般用医薬品の製品表示に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。
- b 適切な保存条件の下で製造後2年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品においては、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）上、使用期限の表示義務はない。
- c 1回服用量中0.1mLを超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- d 表示された「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限であり、いったん開封されたものについては記載されている期日まで品質が保証されない場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤

問 50 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カプセル剤は変質しやすいため、開封後は冷蔵庫内に保管されるのが望ましいとされている。
- b 散剤は、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- c 点眼薬は、複数の使用者間で使い回されると、万一、使用に際して薬液に細菌汚染があった場合に、別の使用者に感染するおそれがあるため、他の人と共用してはならない。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	誤
3	正	正	正
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

問 51 一般用医薬品の添付文書の記載に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消費者相談窓口として、製造販売業者に許可を与えた都道府県の許可担当部門の名称、電話番号が記載されている。
- b 有効成分が不明な場合は、成分及び分量の項目については記載されていない。
- c 医薬品の使用のみに頼ることなく、日常生活上、どのようなことに心がけるべきかなどについて、記載されていることがある。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	正	正

問 52 安全性情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 緊急安全性情報は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構からの命令や指示、製造販売業者の自主決定に基づいて作成される。
- b 緊急安全性情報は、医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達であり、一般用医薬品に関係する緊急安全性情報が発出されることはない。
- c 安全性速報は、A4サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。
- d 厚生労働省においては、医薬品（一般用医薬品を含む）、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報をとりまとめ、「医薬品・医療機器等安全性情報」として、広く医薬関係者向けに情報提供を行っている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 53 医薬品の安全対策に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 1961年に起こった薬害エイズ事件を契機として、医薬品の安全性に関する問題を世界共通のものとして取り上げる気運が高まり、1968年、世界保健機関（WHO）加盟各国を中心に、各国自らが医薬品の副作用情報を収集、評価する体制（WHO国際医薬品モニタリング制度）を確立することにつながった。
- b 一般用医薬品には、承認後の使用成績等を製造販売業者等が集積し、厚生労働省へ提出する制度（再審査制度）は適用されていない。
- c 2006年6月の薬事法改正による登録販売者制度の導入に伴い、登録販売者も医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づく報告を行う医薬関係者として位置づけられている。
- d 1979年に創設された副作用・感染症報告制度において、医薬品等との関連が否定できない感染症に関する症例情報の報告や研究論文等について、製造販売業者等に対して国への報告義務を課している。

1（a, b） 2（a, c） 3（a, d） 4（b, d） 5（c, d）

問 54 一般用医薬品の安全対策に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

塩酸フェニルプロパノールアミンが配合された一般用医薬品による（ a ）等の副作用症例が複数報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている（ b ）患者の使用によるものであった。そのため、厚生労働省から関係製薬企業等に対して、使用上の注意の改訂、情報提供の徹底等を行うとともに、代替成分として（ c ）等への速やかな切替えにつき指示がなされた。

	a	b	c
1	間質性肺炎	糖尿病	プソイドエフェドリン塩酸塩
2	間質性肺炎	高血圧症	プソイドエフェドリン塩酸塩
3	間質性肺炎	腎臓病	ジフェンヒドラミン塩酸塩
4	脳出血	糖尿病	ジフェンヒドラミン塩酸塩
5	脳出血	高血圧症	プソイドエフェドリン塩酸塩

問 55 医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置に関する以下の記述について、()
の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

収集された副作用等の情報は、その医薬品の製造販売業者等において評価・検討され、必要な安全対策が図られる。各制度により集められた副作用情報については、(a)において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、(b)は、(c)の意見を聴いて、使用上の注意の改訂の指示等を通じた注意喚起のための情報提供や、効能・効果や用法・用量の一部変更、調査・実験の実施の指示、製造・販売の中止、製品の回収等の安全対策上必要な行政措置を講じている。

	a	b	c
1	日本製薬団体連合会	厚生労働大臣	くすりの適正使用協議会
2	日本製薬団体連合会	都道府県知事	薬事・食品衛生審議会
3	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	厚生労働大臣	薬事・食品衛生審議会
4	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	都道府県知事	くすりの適正使用協議会
5	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	厚生労働大臣	くすりの適正使用協議会

問 56 医薬品副作用被害救済制度に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による被害者の迅速な救済を図るため、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度として運営が開始された。
- b 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成14年法律第192号）第19条の規定に基づいて、製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられるほか、事務費については、その2分の1相当額は国庫補助により賄われている。
- c 独立行政法人医薬品医療機器総合機構においては、(公財)友愛福祉財団からの委託を受けて、スモン患者に対する健康管理費用の支給等を行っている。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	正	正

問 57 以下のうち、使用により生じた健康被害事例が医薬品副作用被害救済制度の対象となるものはどれか。

- 1 無承認無許可医薬品
- 2 一般用検査薬
- 3 個人輸入により入手された医薬品
- 4 人体に直接使用する殺菌消毒剤
- 5 日本薬局方ワセリン

問 58 医薬品 P L センターに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品 P L センターへの相談が推奨される。
- b 医薬品 P L センターは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構において、平成 7 年 7 月の製造物責任法（平成 6 年法律第 8 5 号）の施行と同時に開設された。
- c 医薬品 P L センターは、消費者の代理人として、裁判により迅速に解決に導くことを目的としている。
- d 医薬品 P L センターは、医薬品又は医療機器に関する苦情（健康被害以外の損害も含まれる）について相談を受け付けている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問 59 以下の医薬品副作用被害救済制度による給付の種類のうち、請求期限がないものはどれか。

- 1 障害年金
- 2 医療費
- 3 医療手当
- 4 遺族年金
- 5 葬祭料

問 60 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。
- b 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤、大麻等）によるものばかりでなく、一般用医薬品によっても生じ得る。
- c 薬物乱用は、乱用者自身の健康を害するが、社会的な弊害を生じることはない。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	正	正	正
4	誤	正	正
5	誤	誤	正